



財団法人岡山県国際交流協会理事長

末長 範彦

## 協会創立20周年を迎えて

財団法人岡山県国際交流協会は、平成3年3月に行政と民間が一体となって岡山県における地域の国際化を進める中核的な役割を果たす組織として設立され、平成22年度に創立20周年を迎えました。設立当初、1万1千人程度であった県内の外国人登録者数は、平成21年末で約2万3千人と、20年間で約2倍に増加しており、グローバル化が急速に進展してきています。外国人の定住化が進んでいる現在、様々な面で外国人と日本人がともに地域住民として生活していくための視点が強く求められる時代になってきており、協会の行う事業も、これまでの国際交流と国際協力を柱としたものから国際貢献や多文化共生の推進へと大きく転換してきています。

20周年は、人間でいえば成人にあたる重要な節目であり、これまで協会を支えてくれた皆様方に感謝するとともに、これからの協会の新しい方向性を見いだそうと、“ありがとう20周年 We Are地球市民 未来に向かってアクション”をテーマに、昨年4月からユニークで特色ある事業を展開してきました。事業は、先駆性があるもの、協会の新たな柱となるもの、今後も継続的にできるもの、協会のイメージアップにつながるもの、などに重点を置いて企画しました。

一例を挙げると、多文化共生の関連施設をネット上の地図に多言語で表示する「岡山多文化共生マップ」は最新のIT技術を使った取り組みであり、また、在名古屋ブラジル総領事館の協力で4月と12月に開催した「一日ブラジル総領事館in岡山」は、全国から延べ8百余人に利用され、広域交通の要衝である岡山ならではの地の利を活かした事業となりました。そして外国につながる子どもたちを地域でどのように支えるかを議論した「おokayama国際シンポジウムⅠ」、企業のグローバル化と留学生人材の活用を議論した「同Ⅱ」。いずれも知的刺激に満ちた内容で参加者に大きな示唆を与えるものとなりました。一方、運営面では協会をアピールするロゴマークを決定したほか、記念事業を支えてくれたボランティア「OPIEF20スペシャルサポーター」と職員との新しい絆ができたことも大きな収穫でした。

私は、20周年記念事業を通じて、これからの協会のあり方を確かな手応えとして実感できました。今後は、記念事業で得られた成果を協会運営に最大限に活かし、地域の国際化を先導する団体として協会のさらなる発展に取り組んでまいりたい所存です。



財団法人岡山県国際交流協会のロゴマーク